

メバチ 中西部太平洋

Bigeye tuna *Thunnus obesus*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 2.0m 以上・不明
- 寿命：不明
- 性成熟年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：温帯域
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：(大型個体の場合) カジキ類、サメ類、海産哺乳類

利用・用途

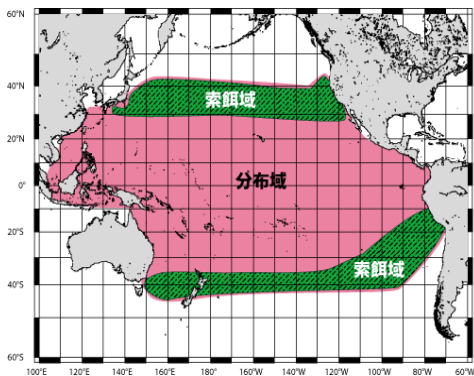
刺身や缶詰原料

漁業の特徴

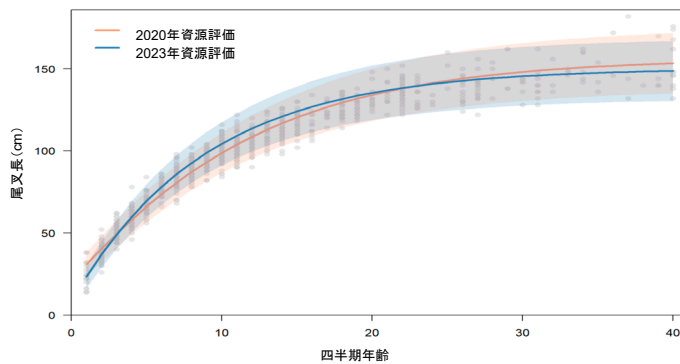
はえ縄及びまき網が主な漁業である。はえ縄は 1950 年代にキハダを主要対象種として発展したが、1970 年代半ばにメバチを主要な対象とするようになった。まき網は、カツオを主対象としつつ、キハダも漁獲する漁業として 1970 年代半ばに始まった。1970 年代までは、はえ縄が漁獲のおよそ 9 割を占めていたが、1980 年代以降、まき網による漁獲量が増加した。フィリピン・インドネシアでは小型まき網、ひき網、刺網、手釣り等の漁業が小規模かつ多様で、漁獲量も大きい。

漁獲の動向

総漁獲量は、はえ縄がほとんどであった 1970 年代初頭までは 5 万トン未満であったが、まき網が増加した 1980 年代末に 10 万トン以上に達し、1990 年代後半には 15 万トン前後となった。2004 年に約 20 万トンのピークを記録した後は約 14 万～約 18 万トンで推移している。2024 年の総漁獲量は約 15.2 万トン(予備集計)で、内訳は、まき網が約 33%、はえ縄が約 36%、竿釣りが約 2%、その他が約 29%である。そのほかには、フィリピン及びインドネシアにおける多様な漁業(ひき縄、小型のまき網、刺網、手釣り等)が含まれている。



太平洋におけるメバチの分布



中西部太平洋におけるメバチの成長曲線

資源状態

資源評価は2023年に太平洋共同体事務局（SPC）の科学専門グループにより行われた。評価期間は1952年から2021年であり、統合モデルであるMultifan-CLが解析に使用された。MSYは約16.5万トン（54モデルの中央値）と推定され、2023年の漁獲量より大きい。2018年から2021年の平均の産卵資源量（SB）の54モデルの中央値のレベル（ $SB_{2018-2021}/SB_{F=0}$ ）は0.35（80%確率範囲は0.31~0.40）であり、限界管理基準値（Limit Reference Point； $SB/SB_{F=0}=0.20$ ）を上回っている。なお、2021年はSBが69万トン、 $SB_{F=0}$ が192万トン（54モデルの中央値）と推定されている。過剰漁獲の判断基準の一つであるMSYを実現する漁獲死亡係数（ F_{MSY} ）と比較した場合、2018年から2021年の平均漁獲死亡係数の54モデルの中央値のレベルは1.0を下回った（ $F_{2018-2021}/F_{MSY}=0.59$ ；80%確率範囲は0.46~0.74）。これらの結果から資源は過剰漁獲の可能性が低く、乱獲状態でない可能性が高い。

管理方策

まき網（熱帯水域）

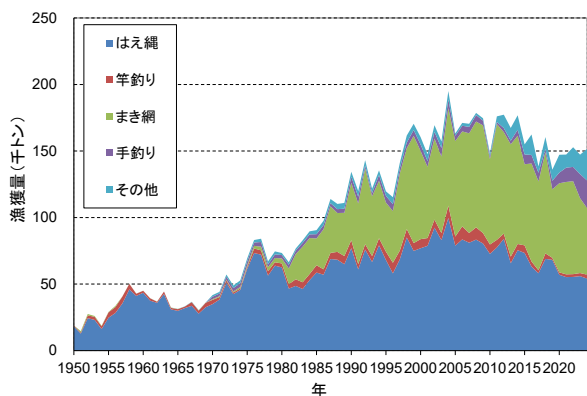
- ・FAD操業禁止1.5か月（7~8月中旬）+ 公海FAD操業禁止追加1か月（4~5月もしくは11~12月）
- ・公海FAD操業禁止措置は、キリバス排他的経済水域に隣接する公海でキリバス旗を掲揚する船舶、及び特定の公海で操業するフィリピンの船舶に適用されない
- ・FAD操業禁止は、本船以外の船（tender vessel等）にも適用される
- ・FAD数規制（1隻あたり常時350基以下）：全条約水域に適用
- ・排他的経済水域内での操業日数制限（我が国の操業日数は1,500日）
- ・公海上での操業日数の制限（我が国の操業日数は121日）
- ・島嶼国とインドネシアを除く加盟国の大型冷凍船の隻数制限
- ・海洋生物の絡まりを防ぐため、FADへの網地等の使用禁止。

はえ縄

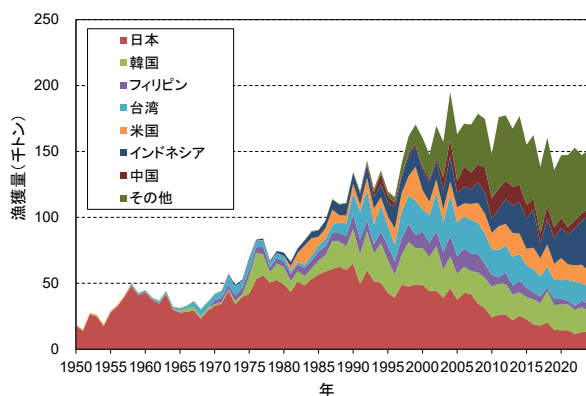
- ・メバチの漁獲上限について、以下のとおり。

対象国・地域	漁獲枠（トン）
日本	18,265 *1
中国	8,224 *1
インドネシア	5,889 *1
韓国	13,942 *1
台湾	10,481 *1
米国	6,554

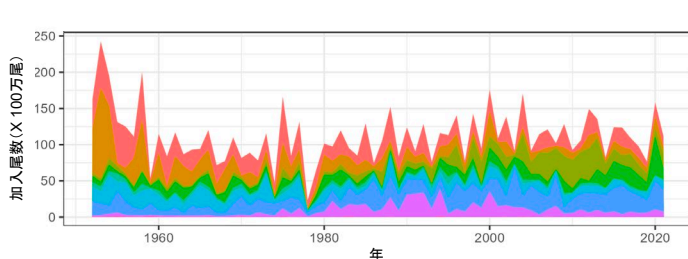
*1：オブザーバーカバー率（現行5%義務）の増加に応じて、漁獲上限を最大10%増やすことが可能。



中西部太平洋におけるメバチの漁法別漁獲量の推移 (1950~2024年)

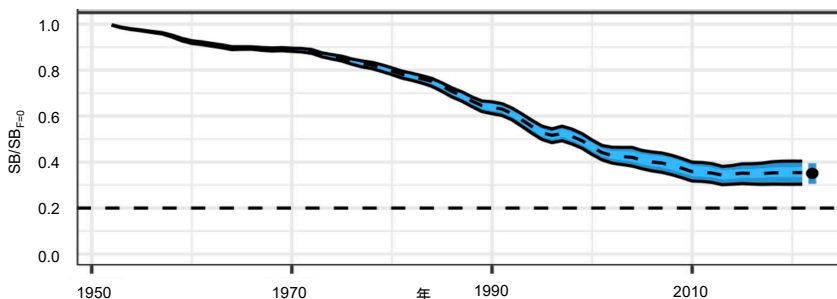


中西部太平洋におけるメバチの国・地域別漁獲量の推移 (1950~2024年)

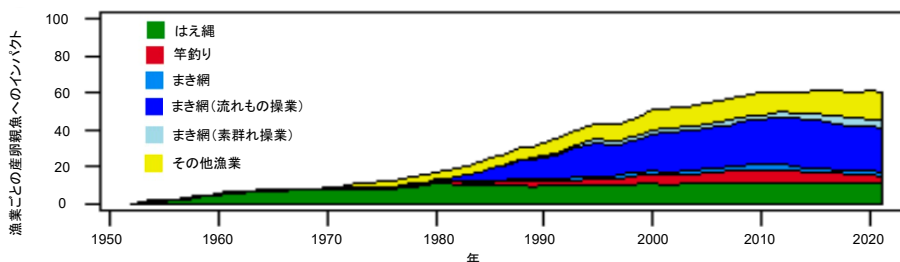


中西部太平洋におけるメバチの加入量 (1952~2021年) 海域ごとの加入量を表す。

メバチ（中西部太平洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近5年間)	14.7万~15.3万トン 最近(2023)年:15.2万トン 平均:14.9万トン(2020~2024年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	1.2万~1.4万トン 最近(2023)年:1.3万トン 平均:1.3万トン(2020~2024年)
資源評価の方法	統合モデル(Multifan-CL)
資源の状態 (資源評価結果)	SB ₂₀₂₁ :69万トン、SB _{F=0} :192万トン (SB ₂₀₁₈₋₂₀₂₁ / SB _{F=0} = 0.35) F ₂₀₁₈₋₂₀₂₁ / F _{MSY} = 0.59 2021年の資源状態は、過剰漁獲ではなく、乱獲状態でもない
管理目標	暫定値:2012-2015年の平均減耗率 (SB ₂₀₁₂₋₂₀₁₅ /SB _{F=0})
管理措置	まき網(熱帯水域) ・FAD操業禁止1.5か月(7~8月中旬)+公海FAD操業禁止追加1か月(4~5月もしくは11~12月) ・公海FAD操業禁止措置は、キリバス排他的経済水域に隣接する公海でキリバス旗を掲揚する船舶、及び特定の公海で操業するフィリピンの船舶に適用されない ・FAD操業禁止は、本船以外の船(tender vessel等)にも適用される ・FAD数規制(1隻あたり常時350基以下):全条約水域に適用 ・排他的経済水域内での操業日数制限(我が国の操業日数は1,500日) ・公海上での操業日数の制限(我が国の操業日数は121日) ・島嶼国とインドネシアを除く加盟国の大型冷凍船の隻数制限 ・海洋生物の絡まりを防ぐため、FADへの網地等の使用禁止。 はえ縄 ・メバチの漁獲量制限(我が国の漁獲枠は18,265トン)
管理機関・関係機関	WCPFC
最新の資源評価年	2023年
次回の資源評価年	2026年



中西部太平洋におけるメバチの Spawning Biomass ratio の推移 (1952~2021年)
 漁業がないと仮定して推定した状態のSBを1.0としたときの、実際のSBとの比(資源の減耗率)。黒の破線は54モデルの中央値、濃い青色の影、薄い青色の影は、それぞれ、10・90パーセンタイル、25・75パーセンタイルを示す。
 最も右側の青丸は近年(2018~2021年)の中央値、垂直のバーは10・90パーセンタイルを示す。
 なお Spawning Biomass ratio の推移は、過去1年分の漁業がないと仮定して推定した値。
 最も右側の青丸や垂直のバーは各年について過去10年分の漁業による漁獲がないと仮定して推定した値であることを留意。
 過去10年分のケースが資源管理方針を考える場合の指標に用いられる。



中西部太平洋における漁業ごとのメバチ産卵資源へのインパクト (1952~2021年)
 縦軸は漁業が資源を減少させた割合(%)を示したもの。